

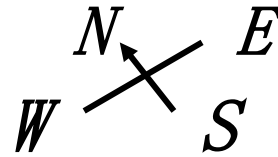
藤 沢

2020年11月1日

第318号

エコネット

藤沢環境運動市民連絡会
(略称) 藤沢エコネット



主
な
記
事

- ・ 沖縄からの報告 ・ 藤沢の空気とぜん息
- ・ ゼロカーボンシティ宣言を今こそ!
- ・ 村岡新駅は住民のためか?

<http://econet2015.sakura.ne.jp>

事務局 e-mail: aoyagipc@jcom.home.ne.jp 青柳

☎ / F A X 0466-87-4922

学問の自由の問題、任命拒否は違法

学術会議は10月3日、推薦した6名の拒否理由の開示と追加任命を求め要望書を菅首相に提出した。理工系だけでも93学会(10月9日)が任命拒否を憂慮する緊急声明を発している。さらに日本自然保護協会、日本野鳥の会、WWF ジャパンも連名で抗議した。「政権が学会及び研究者に圧力をかけている」これを許せば、「不要な忖度や萎縮を引き起こし、政策の適切な実施を阻害するおそれがある」と指摘する。

行政施策を点検し提言することは科学者の社会的義務である。内容が批判的になることは当然で、気に要らないからと八つ当たりとは常軌を逸しているというのだ。学会のこのすばやい対応は、問題の深刻さと、明らかに法律違反であるという問題の明白さが際立っていた証拠である。なお菅首相がその後述べた、見たのは99人のリストであることが事実なら「総合的、俯瞰的」な判断が疑わしく、公文書改ざんの疑義さえある。

ところで、政府が大学や研究者に圧力をかけることは今にはじまったことではない。内閣府に「総合科学技術・イノベーション会議」がある。この組織、科学技術予算の配分、公募研究資金の課題(重点分野)の設定、課題採択の評価軸も決めている。例えば評価の重要な要素がイノベーション(産業貢献)であり、基礎科学分野の研究者には至って厳しい注文である。研究費を得た後も政府が指定するプログラムディレクターによって研究の進行が管理されている。これを総合科学技術・イノベーション会議の「司令塔」機能と称している。研究費の獲得に苦慮する中、研究内容の変更も余儀なくされ、産業に役立つ研究に誘導されている。これも圧力といえるであろう。

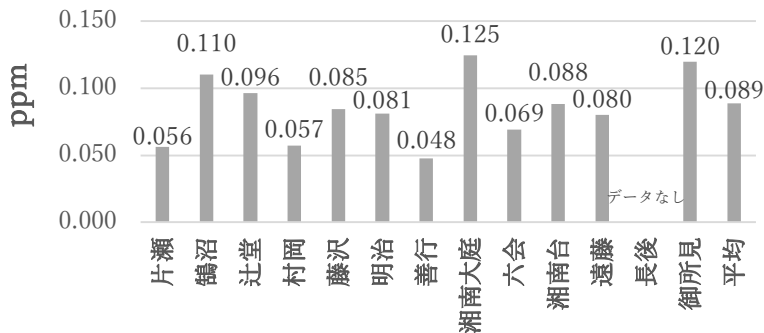
「研究の自主性・自律性、そして特に研究成果の公開性」が科学の健全な発展に重要であり、その立場から学術会議は、防衛省の安全保障技術研究推進制度に懸念を表明した(2017年3月)。6人の推薦拒否は単に研究者のみならず、国民全体にふりかかる問題であり、政府に都合の悪い言動を監視しているのではないかと疑われる。やはり学術会議は政権から独立していなくてはならず、研究者の声を発し続けて欲しい。私はそのような学術会議を支持する。(菅谷芳雄)



コスモス 慶応大学付近の畑で満開

藤 沢 の 空 気 と ぜん 息

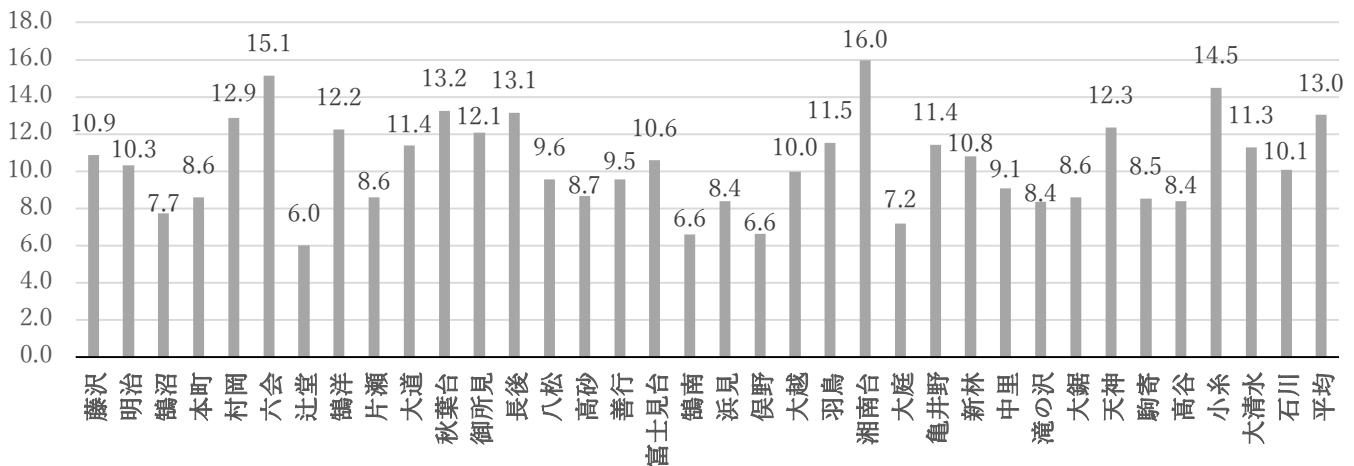
大気汚染（NO₂）地区別2019年12月



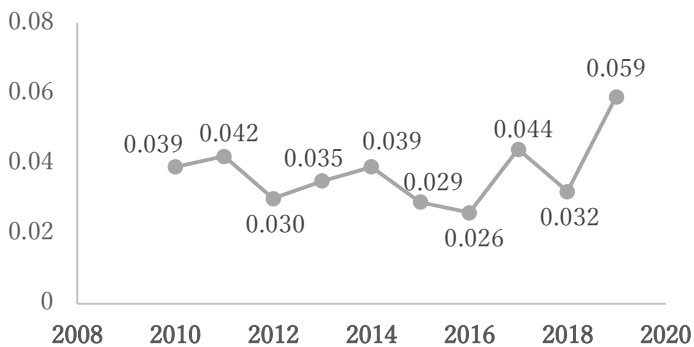
市民測定による大気汚染（NO₂）12月の平均は0.089ppmと環境基準を大きく越えました。

それに伴い、児童のぜん息の平均は1.3%と、過去最悪になっています。対策が急がれます。

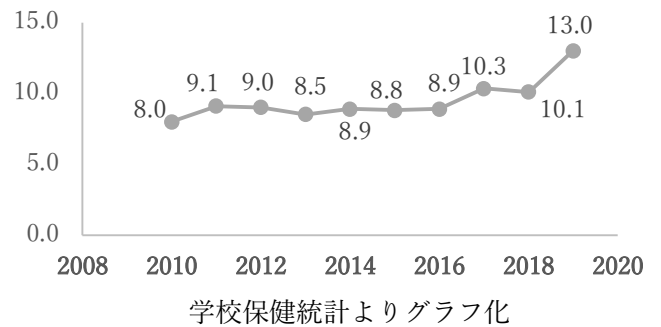
藤沢市小学校ぜん息罹患率(%)2019年



大気汚染（NO₂）経年変化6月(ppm)



藤沢市小学校ぜん息罹患率経年変化(%)



学校保健統計よりグラフ化

大気汚染(6月)とぜんそくの過去10年間の経年変化です。大気環境基準は0.04~0.06ppm以下で、それを2011年、2017年、2019年に上限近くになっていて、ぜん息もその年に増えています。

また2019年には大気汚染が大きく悪化しぜん息も増えました。

(青柳節子)



ゼロカーボンシティ宣言を今こそ！

気候危機は待ったなし！ -藤沢は何かできるのか- の学習会は、前回9月21日の講演会を受けて、もっと学習を深めたいとの要望もあり、10月25日(日)に行いました。リモートによる参加もあり、録画をYoutubeにUPしました。(→ゼロカーボンシティ学習会)

「ゼロカーボンシティ宣言を今こそ！」と題して講師は吉田明子さん(国際環境NGO FoE Japan 理事)のお話でした。

ゼロカーボンシティ表明の自治体の例、環境省の支援状況、世界の状況などの概略をパワーポイントにより説明。藤沢での資料によりチェックする視点を話され、再生エネ100%調達の世田谷区の事例や他の先進事例も。

藤沢市エネルギーの地産地消計画は、小水力やバイオマス発電にも踏み込んでいてすごい。地球温暖化対策実行計画のパブコメの参加者が14名で少なかった、環境審議会、議会等との連携はどうなっていますか？と踏み込んで指摘がありました。自治体の気候変動・エネルギー政策はとても重要である、先ず宣言してその後で具体化してもよいとのこと、肩の荷が下りるような言葉でした。

パワーシフトキャンペーンでは再生エネ供給を目指す電力会社の紹介、自社の工場・店舗・本社ビルなどの電力を切り替え、お客様など周囲の人にパワーシフトを呼びかけている企業の紹介もあり「未来につながる“でんき”のえらび方」のリーフレットの紹介もありました。

講演の後、藤沢でのアクションをどうするか、HPの検討や他団体への働きかけの計画などの話し合いをしました。(宮地俊作)



放射能測定値(市民計測)

(HORIBA Radi) 単位 (μSv/h) 地上50cm
10月22日 鵜沼海岸引地川河口近く 0.035
11月1日 引地川親水公園 0.027

▲映画 第五福竜丸 お話=武本匡弘さん

11月28日(土) 13:30-16:00

藤沢市民会館第1展示ホール

主催 ピースリレー・ふじさわ

予約申込 090-9239-0864 0466-36-9816



▲講演 気候非常事態宣言の国際動向

カーボンニュートラル行動計画をどう作るか

講師 山本良一さん(東大名誉教授)

11月28日(土) 13:30-

ミナパーク6階 参加費 2000円

予約制 info@plasticfreejapan.org へ

主催: NPOプラスチックフリージャパン

▲日米地位協定を考えるパネル展

ージェット機の墜落事故で被害を受けるのは私たちー

12/13(日) 11:00-21:00 12/14(月) 10:00-20:00

やまと芸術文化ホール シリウス1階ギャラリー

主催: パネル展実行委員会 ☎046-263-1294

▲ふじさわ環境パネル展

12月14日(月) ~ 18日(金)

藤沢市役所分庁舎ロビー (最終日は正午まで)

▲前川喜平さんの講演会

「日本国憲法が生きる国を」

12月17日(木) 18:30~ 市民会館小ホール

チケット800円 ☎080-2380-1956 鈴木

主催: 「平和・民主・革新の日本をめざす藤沢の会」

▲気候危機アクション藤沢 定例会

11月20日(金) 10時 六会公民館

▲藤沢エコネットから

◆会員募集 年会費・購読料→2000円

◆事務局会議 11月7日(土) 10:00~

六会公民館

《編集後記》2017年122カ国の賛成で採択された核兵器禁止条約の批准国がホンジュラスで50ヶ国に達し、来年1月22日に発効することになった。長年の被爆者そして被爆国日本の願いが大きく一歩前進した。日本政府の立ち位置が危うい。批准をして核兵器保有国に強く働きかけるのが被爆国の道ではないだろうか。原発を手放さず、地球温暖化対策に活用するのも、道に外れている。(A)